

▽:村山鋼材はロングセラーと
なったレーザー切断用鋼板の対応
サイズ拡大に取り組んでいる。同
社は浦安工場に大型レベラーライ
ンであるジャンボカッティングラ
インを2基保有し、厚物のカット
シートを得意としている。なかで

までもブランドにふさわしい品質
を維持していくことが生命線」。
▽:サイズ対応で同社が追求し
ているのは幅2.3超えのコイルの
切断だ。直近のテストでは板厚16
ミ、幅2300ミのコイル切断
に成功、今は建機分野向けの厳

で自分達の商品を活用してほしい
という強い願いがあるからだ。同
社のレーザー切断用鋼板は建機関
連の加工を手掛けるシャワーの現場
で見かけることが多くなっている
が、ロングセラーとして定着して
いるのもこうしたきめ細やかなこ
だわりがあったからこそと言える。

用鋼板は厚板ミ
ル材と比べて遜
色ない仕上がり
で、シャワー業者
が加工を行う際
に前工程にショ
ットブラストを
かけずに済
み、かつ火入れ
しても反りが生
じないという高
品質商品となっ
ている。品質に
対する同社のこ
だわりは徹底し
ていて、品質を
維持するための
設備投資も高額

でありながらも惜
しみが無い。最近
は両ラインの中
間レベラーを約
4千万円かけて
入れ替えている。
村山和雄社長は
言う。「商品差別
化のため相応の
コストはかかる。
だが、その分は
社内合理化でカ
バーし、あく



16^ミ厚、2300^ミ幅のレーザー用鋼板加工

わが社のノウハウ

村山鋼材



しく品質精度
を求められる用
途向けに安定品
質で提供するた
めに調整を行っ
ている。一般的
なシャワー母材
としては全く問
題はないが、ど
んな精度要求に
も対応し得る商
品を提供していく
ために妥協はし
ない。

▽:村山社長は企業理念として
「協創」を掲げている。「ユーザ
と一体になって創造する、つまり
協創することで当社は強みを発揮
できる。こちら側の論理だけでは
良い商品を提供し得ない。今回は
レーザー切断用鋼板のサイズ拡大
で色々取り組みを行ってきたが、
レーザー用と他の板とを品質面で
区別する気はない。極論すれば、
現場は常にごお客様に対しても
最高の商品を提供したいという思
いがある」。

維持するための
設備投資も高額
でありながらも惜
しみが無い。最近
は両ラインの中
間レベラーを約
4千万円かけて
入れ替えている。
村山和雄社長は
言う。「商品差別
化のため相応の
コストはかかる。
だが、その分は
社内合理化でカ
バーし、あく

アも徹底して行
うのが同社なら
はの手法だ。営
業マンに技術屋
が同行し、実際
に顧客の加工現
場において、板
のクレーンでの
吊り上げ方や、
レーザーの火入れ
の仕方に至るま
でアドバイスを
行うという。顧
客がベストコン
ディション

▽:同社は藤澤鋼板との協業に
より加工ラインの合理化を実施し
ている。東京都大田区にあった本
社工場を閉め、ジャンボカッティ
ングライン1号機は浦安工場に移
設したものだ。レーザー切断用鋼
板を加工しているのはこのライン
である。今期は浦安2ラインで月
間2万ト達成を一つの目標とし、
あくなき品質への追求で顧客に評
価されている。

(康)